

たバーベキュースペースの明確化などにより対応していきたいと考える。

問バーベキュー場の設置における周辺施設への効果について伺う。

答バーベキュー場の設置により、レクリエーション施設としての魅力が向上し、伊佐沼公園などの利用促進にも効果があると考えている。

.....

問これまでに、市では既存建物の耐震工事を行っているが、農業ふれあいセンターの建物の老朽化等の状況は。

答平成元年度に新耐震基準で建築されていることから、耐震性を有する建物である。また、老朽化については、雨漏れや、

外壁吹き付け材、内装材に劣化等が発生している状況である。

問長寿命化に資する工事をするこの効果を伺う。

答川越市個別施設計画（公共施設編）で新耐震基準建築物の目標使用年数を65年超としていること

等から、定期的に必要な保全を実施し、65年を超える期間にわたり使用していきたい。今回の工事で劣化状況等の調査と使用材料の選定等を行ったところであり、長期間良好な状態で使用できるような適切な保全に努めたい。

.....

問工事期間中のふれあい農園の管理体制はどのように考えているか。

答工事期間中も市民農園や体験農園の運営を続けていくため、利用者の利便性が損なわれないよう、職員を近隣にある鴨田農業集落排水施設の事務所

に配置し、畑の管理等の業務を行っていく。

問地域活性化に向け、農業ふれあいセンターと周辺施設との連携をどのように想定するか。

答伊佐沼や農産物直売所などの周辺施設と連携して面的に地域の活性化を図っていく。具体的には、農産物直売所で販売している食材をバーベキュー場で活用することや農業

体験などの参加者が市内に宿泊し、翌日に市内観光を楽しむなど、観光客の滞在時間の延長や消費拡大につながるような連携などが想定される。

.....

問利用者等からの意見要望を取り入れたものは。

答計画に反映できたものとして、農園内のベンチ整備やバーベキュー施設等の汚水の公共下水道への排水などがある。

問多目的ホールは避難所として使用できるか。

答多目的ホールは一般的なな体育館とほぼ同じ広さ

**議案第69号
令和3年度一般会計補正予算(第3号)**
〔自由民主党〕〔公明党〕〔日本共産党〕

問PCR検査等の公費負担の補正額の積算根拠について伺う。

答1カ月当たりの請求件数を3千件と見込み、平均単価の4800円を乗じた金額と、当初要求額との差額分を計上した。

問保健所PCR検査用消耗品の増額の補正額は、

で、改修工事後には浴室や調理室など宿泊できる設備が整うことから、今後防災部局と協議をする。

補助するのかわう。
答中止に伴い発生したキャンセル料について、保護者の負担がないよう、市が全額補助しようとするものである。

.....

問東後楽会館が廃止されたが、代替施設となるか。

答農業ふれあいセンターは、地域の交流や活動の場としての利用も想定しており、シャワーや浴室も、子どもから高齢者など、幅広く利用できる施設と考えている。旧東後楽会館を利用していた人たちにもレクリエーションや交流、活動等の場として活用してもらいたい。

問前年度剰余金である繰越金のうち使途が特定されずに活用できる金額は。

答繰越金は翌々年度までに2分の1以上の額を基金への積み立てや地方債の償還財源とすることとされている。令和3年度の繰越金約39億円のうち使途が特定されずに活用できる金額は約20億円の

見込みだが、過年度で超過交付となった国・県支

出金の償還財源となる場合もあり、その活用には留意が必要である。

.....

問補正予算編成の基本的な考え方を伺う。

答感染拡大により今後不足が見込まれる感染症対策経費や、学校行事の中止等により生ずる市民負担の軽減を図る経費等について、早期の予算措置を講ずるため編成した。

問入院調整中の人への支援など、対応を伺う。

答血中酸素飽和度を測定するパルスオキシメーターを貸し出し、毎日体調確認を行い、体調不良者に受診や入院を勧奨する。また、配食サービスとして、食品を配達している。

問民間保育所等施設の業務のICT化等の内容は。

答ICTを活用した業務システムの導入や、翻訳機等を購入するための初期費用の一部を補助する。補助基準額は、業務システムで1施設100万円、翻訳機等で1施設15万円を上限とする。